

EU 支部長: 松原真実子 MATSUBARA Mamiko

青森県八戸市出身 国際文化研究専攻修士 修士論文『異文化間コミュニケーションの研究—フィードバック作用—』
現在 大阪府 太成学院大学 勤務

E-mail: leoshironeko@yahoo.co.jp



この号の内容

1 イタリア万博後の跡地: MIT から学ぶ新たなイタリアへの4プロジェクト

2 EU 支部だより

- ・32%の総合キャンパス
- ・68%の新時代の農業

イタリア万博後の跡地:

MIT から学ぶ新たなイタリアへの4プロジェクト

— Expo dopo Expo: quattro progetti per realizzare il Mit del made in Italy —

イタリアでは10月にエキスポが終わった。政府は、今後、エキスポの跡地が十分に活用されなくなることを懸念している。この地域は、水も空気も景色も良く、それら自然を有効に活用するために多額の費用を投入し、エキスポ用地として美しく整備されたものだ。

それにも拘わらず、今後の活用が見込まれないことから、政府は、この地域を新たに科学の町として再生しようとプロジェクトを進めている。同様のプロジェクトは、すでに、ロンドン、ベルリン、そして、モスクワでも行われており、イタリア政府は、これらの町からヒントを得、プロジェクトを進めている。本来、このような町の計画は、MIT(マサチューセッツ工科大学)が考案・実施し成果を出してきたものであり、これら4都市からのアイデアを総合し、イタリアならではの科学の町建設が進められている。具体的には、エキスポ跡地の32%を科学の町に充てる予定で、多くの大学がそれぞれ特有の学部を移設する。イタリア最大の一大総合キャンパスが計画されている。講義室、図書館、レストラン、ゼミ室といった学生へのサービスはもとより、多様な研究室も建築予定だ。その中には、学生や若者による起業へのインキュベーターも展開する予定となっている。

残りの跡地には、新時代の農業プロジェクトを展開する。例えば、ロボットによる農作業や、バーティカルファームの実施である。

イタリア政府は、以上の実施を決め、一日も早い開始に向け始動している。イタリア政府によるイタリアエキスポ跡地利用のプロジェクトは、以下の4プロジェクトとなる。

- 1) 学ぶための大学誘致プロジェクト
- 2) リサーチのためのラボラトリープロジェクト
- 3) 起業のためのインキュベータープロジェクト
- 4) 新時代のための農業プロジェクト

—R.it ECONOMIA & Finanza 05 ottobre 2015—



- ・熊本の大地震
- ・看護学生と震災

EU 支部だより —震災への思い—

熊本で大きな地震があった。私の友人も熊本市内にいる。2日目にメールをしたがつかずなかつたため、3日目、電話をしてみた。電話の向こうで、昔と変わらぬ調子で話す友人に、私の方がほっとした。しかし「もう3日間車の中で過ごしている。」と告げた声には、やはり緊張が感じられた。

私の勤務する大学には、看護学部がある。看護師を目指す学生たちの中には、自分自身東日本大震災で被災しながらも、苦しんでいる人たちに何もできない自分のふがいなさから、看護師を目指した学生も多い。「もし、すでに看護師なら、とにかく駆けつけたいのに。」熊本の地震を知り、くやしそうにそう話す学生も多かった。

それぞれの思いを胸に一人ひとりができる震災支援を進めていきたい。一体、私は何ができるのだろうかと思いながら、駅前の震災支援募金に心ばかりの寄付をすることしかできない自分が少し悲しかった。(松原)

